

第164回定例会が8月28日 日本規格協会東北支部において開催された。出席者数は25名であった。機能性祭りVの運営について最終の検討が行なわれた。特に新型インフルエンザに関する対応についての詳細を決定した後、事例検討を行った。

1. 放熱システムの基本機能と評価法：白木 信（アルパイン㈱）

機能性評価祭りVで発表予定のテーマで、車載電子機器の放熱における筐体内レイアウトをパラメータ設計した事例である。従来は定常状態における発熱部品や重要部品の温度上昇値をスペック評価していたが、放熱の基本機能と評価法を見直し、過渡状態での熱エネルギーの出入りで評価した結果、最適条件では車載取り付け条件による放熱ばらつきが約1/4に低減し、温度上昇も低減した。これに対し、最終的にS/N比を求めるための信号と出力の関係にたどり着くまでの流れがわかり難いとの指摘があり、機能性評価祭りの趣旨に合わせ前半の基本機能や評価特性の説明に重点をおくこと、温度ではなくエネルギーで評価したことを強調すること、などの改善案が提案された。

2. 材料の難燃性評価方法の検討：宇井 友成（アルプス電気㈱）

新しい材料の検討を行っているが要求される性能の一つにUL難燃性がある。この規格は判定を目的としたもので、材料の難燃性を評価する上では不適切である。そこでどのような評価方法が良いか議論した。

3. 計測機の評価について：佐藤 啓（セイコーインスツル㈱）

計測方法選択の機能性評価や計測器の構成方法など、計測機や計測方法などについてのフリーディスカッション。機能性評価の相談については、内容の再検討後にもう一度相談にもちかけることとなった。

議事録：井上 俊之（㈱ケーヒン）